

順位	氏名（議席）	発言の要旨	答弁者
18	石川 浩司（4）	<p>1. 部活動の地域移行への取組について</p> <p>昨年末にスポーツ庁並びに文化庁から、学校部活動および新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドラインが公表された。当初2023年度から3年間を移行期間として進めるとしていたが、今回のガイドラインでは「地域の実情に応じて可能な限り早期の実現を目指す」と明記された。</p> <p>現在の部活動の状況は少子化に伴い学校によっては部活動の選択肢がなく、また団体競技など、人数が必要な競技については学校単位ではなく合同チームとして参加するなどの課題がある。</p> <p>生徒だけの問題だけではなく、これまで指導されてきた顧問の先生方の負担は大きく教員の働き方改革への影響もある。</p> <p>このような状況の中で、今後富士市としてどのような取組をし、対応をしていくのかについて以下伺う。</p> <p>(1) 現在の富士市としての取組状況を伺う中で、県教育委員会の市町村へのアンケート実施で今年度の地域移行協議会の設置予定なしとあったがなぜなのか。</p> <p>(2) 県内でも他市町では既に地域移行が進み、実施している市町があるが、成功例など富士市に合う方法などは把握しているのか。</p> <p>(3) 富士市の部活動ガイドラインにより活動状況が決められているが、生徒たちにとって部活動（文化部）の希望も多種多様であり学校でも対応できない競技の希望もある中で、外部のクラブに参加する条件は子供たちの希望を尊重し、安心して参加できるような体制になっているのか。</p> <p>2. コロナ禍前後の国際交流の取組について</p> <p>本年5月より新型コロナウイルスは5類に移行し、様々な行事がコロナ禍前と同じように行われるようになった。</p> <p>行事や式典によっては形を変えて実施するものもあるが、特にインバウンドや海外旅行などは急激に復活し以前と変わらない状況となっている。</p> <p>特に今年の夏休みは近隣の市町も中学生から大人まで海外の都市との交流が新聞でも取り上げられていた。</p> <p>富士市も平成元年に国際友好都市となった嘉興市や平成3年に国際姉妹都市の提携をしたオーシャンサイド市、東京オリンピック・パラリンピックのつながりを生かしスイス、ラトビアとの交流も盛んになっており、ますますの交流に期待し以下伺う。</p> <p>(1) 現在のそれぞれの都市とのコロナ禍前の交流とコロナ禍での継続した交流はどのような成果があったのか。</p> <p>(2) 富士市としてそれぞれの都市との交流に訪問のタイミングなどの優先順位はあるのか。</p> <p>(3) 今後国際交流が頻繁に行われるときに、現在の交流観光課の交流推進担当者だけで対応できるのか、また、協力し</p>	市長 及び 教育長 担当部長

順位	氏名（議席）	発 言 の 要 旨	答 弁 者
18	石川 浩司（4）	<p>対応するのはどこの課になるのか。外部の市民団体との連携窓口はどこになり、どのように連携していくのか。</p> <p>(4) 国際交流は若い世代で継続的に行うことが理想であり、コロナ禍の影響によりストップしていた交流事業を再開するのはよいタイミングであるがいかがか。また、富士市は核兵器廃絶平和宣言都市であることから、例えば、中学生を対象に国連事務局のあるスイスで中学生同士の交流などを始めるのはいかがか。</p>	市長 及び 教育長 担当部長